

1	公開授業実施日時	2017年7月7日（金）11:40～12:25
2	場所	京都教育大学附属桃山小学校 6年2組教室
3	対象	6年2組（小学校6年生）35名
4	授業者	諏訪宏志
5	島名	グローバル・ヒストリー
6	単元名	江戸幕府と政治の安定
7	関連する教科・領域	社会科
8	単元の目標・ねらい	参勤交代や農民統制、「鎖国」などの幕府の動きやその時代の文化を通して、それらにかかわる人物の願いや働き、文化遺産の意味を考えようとする。
9	グローバル・スタディーズとしての目標・ねらい	社会的な課題に対するさまざまな捉え方があることを理解することができる。
10	単元の評価規準【教科・領域として】	○参勤交代や農民統制、「鎖国」、文化遺産などに関心を持ち、すすんで調べようとしている。（関心・意欲・態度） ○江戸幕府によって支配する仕組みが整えられ、身分制度が確立して政治が安定したことを理解しようとしている。（知識・理解）
11	単元の評価規準【グローバル・スタディーズとして】	○キリスト教の禁止や「鎖国」などの政策について調べたり比較したりして、当時の物品の意味を考え、適切な言語などに表現しようとしている。（思考・判断・表現）
12	単元計画	(全5時間) 第1時 江戸幕府と大名 第2時 大名のとりしまり 第3時 人々のくらしと身分 第4時 キリスト教の禁止と鎖国 第5時 まとめる
13	本時の目標	○幕府のキリスト教の禁止が及ぼした影響と「鎖国」の様子を考え、幕府の支配の安定化をまとめる。 ○「鎖国」時にも交易があり、いろいろな国の人と交流があったことがわかる。
14	本時の展開	《別紙指導案を参照》
15	グローバル・スタディーズとしての特徴	○「鎖国」と言われながらも、実質は諸藩が幕府の統制の下で諸国と交易し、当時から現在にわたって使われ続けているものに出会う。 ○禁止されていたキリスト教が当時の伏見でも布教されていたことを、画像を中心に紹介し、身近なところにある文化遺産に出会う。
16	授業者から一言	・当時から使われているものとして、当時に近い時代の衣服と、現在でも使われている矢羽を用意して、児童に触れさせることができた。 ・伏見地域の歴史的遺産をデータベース化するような取り組みが、いずれかの機会にできればよいと思う。

研究主題

言葉や文化の違いを認め合い、さまざまな人たちとすすんで関わり合える子の育成

高学年におけるめざす子ども像

自他国の文化の違いを理解し、その多様性を認め合いながら、さまざまな人とすすんで関わりあう

1. 教科名 社会
2. 小単元 江戸幕府と政治の安定
3. カリキュラム名 「キリスト教の禁止と鎖国」
4. カリキュラムのねらい 身近なところにある江戸時代から伝わる物事に会う
5. 教材とグローバル人材育成の接点

縄文以来、日本人が諸外国との交流を通じて様々な影響を受けてきた中で、小学6年生の段階で学習する内容は、以下の表のようになる。

	小単元名	教材	指導内容
①	縄文のむらから古墳のくにへ	板付遺跡と米づくり	中国大陸南方方面から九州に伝わった米づくり
		むらからくにへ	朝鮮半島から来た渡来人がもたらした技術
②	天皇中心の国づくり	法隆寺と聖徳太子	遣隋使小野妹子
		大陸の文化を学ぶ	遣唐使と鑑真
③	武士の世の中へ	武士の政治の始まりと源平合戦	日宋貿易
④	今に伝わる室町文化	足利義政が建てた銀閣	日明貿易
⑤	3人の武将と天下統一	安土城と織田信長	キリスト教の保護と南蛮貿易
⑥	江戸幕府と政治の安定	キリスト教の禁止と鎖国	隠れキリシタンと諸藩の交易
⑦	町人の文化と新しい学問	新しい学問・蘭学	医学・地理学・天文学・兵学などを学ぶ
⑧	明治の国づくりを進めた人々	若い武士たちが幕府を倒す	開国、文明開化
		明治新政府の改革	遣欧米使節団

もちろん、縄文以前には中国大陸から日本列島に行きついた人々は存在したし、明治以降諸国の交流、そして大きな戦いは数多く有る。今回のグローバル・ヒストリーのグループによるカリキュラムの開発にあたっては、以上のような項目が適切ではないかと思われる。3つに大別すると、第Ⅰ期は、中国大陸との交易が主であった、縄文時代から室町時代。帆船による命がけの大海横断により、現在も続く様々な文化・文明がもたらされた。次の第Ⅱ期は、中国大陸を中継地としてヨーロッパ文化・文明が入ってきた安土桃山時代から江戸時代。航海技術の発展により、スペインをはじめとするヨーロッパ諸国が日本にも目を向け始めた。そして第Ⅲ期は、アメリカやロシアなどの大国が開国を迫った江戸時代後期から明治時代。蒸気船の出現で、航海の範囲が広がり、各国の文化・文明が日本に激しく流入した。これ以降は、現在まで続く政治情勢にもかかわるので、別の研究に委ねたい。

本校では、子どもの疑問から調べていく学習活動を主としており、解決にあたっては、できる範囲で実物・画像を用いて資料収集しようとしている。そのためには、子どもたちが生活している地域と諸国との関わりを主に、学習を進めていきたい。弥生時代の米づくりの痕跡は、その集落構成から伏見区深草西浦町の公園に農耕住居跡の石碑がある。平城京跡には5年生の遠足で訪ね、また平城京のイベントに参加した子どもが、中国

文化の影響を受けたと思われる衣装を身につけた写真を寄せてくれた。日宋貿易では絹織物、日明貿易では陶磁器に代表される様々な産物がもたらされ、当時のものには触れられないが現代にも使われて続けているものとして認識できる。安土桃山時代は伏見も隆盛を極め、諸外国のものもたくさん入ってきていた。代表される文化としてキリスト教がある。現南浜小学校の土地にイエズス会の教会があり、ザビエルが関係したかのような記述も見受けられる。幕末の時分には蘭学も各地に行きわたっており、坂本龍馬が寺田屋事件の後治療を受けた薩摩藩お抱え医師は蘭学を学んでいたようだ。明治初期、鳥羽伏見の戦いで罹災した伏見よりも、京都市として受け入れた文明、とりわけ琵琶湖疎水の開発に伴う電力事業が学習には適している。4年生で琵琶湖疎水の学習を行い、稲荷・中書島まで伸びた市電はその形を今に残す。

このようなものに触れながら学習を進めることは、自分が生活する地域の歴史にも関心を持ち、学習も深まるのではないかとと思われる。

7. 本時について

- ・日時 平成29年7月7日（金） 第4校時（11：40～12：25）
- ・学年・組 6年2組 35名
- ・場所 6年2組教室
- ・本時の目標
 - 幕府のキリスト教の禁止が及ぼした影響と「鎖国」の様子を考え、幕府の支配の安定化をまとめる。
 - 「鎖国」時にも交易があり、いろいろな国の人と交流があったことがわかる。
- ・本時の展開

学習の内容と活動	指導上の留意点
○当時の世の中の流れを学習プリントにまとめる。	（学習プリント21は事前に配布し、家庭で予習するように指示しておく。） ●学習プリント21の始めから「鎖国」のところまでの確認を行う。
○教科書の「鎖国」時の交易の様子を読む。完全な「鎖国」ではなく、外国と交易していた藩があり、様々なものが日本に入ってきていたことを調べる。	●どのようなものを輸出入していたかに関心を持つと思われるので、電子辞書『わかる社会』の項で、「鎖国」時の交易品を調べる。
○「鎖国」時の交易品をワークシートにまとめる。	●当時の庶民の衣服と、輸入された木綿・絹製品との違いに触れる。
○禁止されたキリスト教の名残を、伏見区で調べる。	●キリスト教の教会が伏見にあり、イエズス会が開いていたことを紹介する。 ●キリスト教信者に厳しい措置があったこと、その名残が現存していることを紹介する。 ●当時に入ってきた文化の讃美歌を紹介する。
○キリスト教布教のために伏見に来た人やそのほかの貿易のために来た人の思いや、現代とのつながりを考える。	

・評価

当時日本に来た人々の思いや現代とのつながりを考えることができたか。